

令和5年度予算主要事業の概要
(事業別説明資料)

病院事務局



目 次

飛騨市民病院における専攻医（専門研修）受け入れの拡大	3
飛騨市民病院における魅力的な労働環境の整備	4

注：タイトル末尾に*印がある事業は所属ごとの概要資料のみに掲載しています（*印がない事業は主要事業編から再掲となります）

拡充 飛騨市民病院における専攻医（専門研修）受け入れの拡大

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
7,220	一般財源	給与費 4,720
		委託料 1,200
		その他経費 1,300
（前年度予算 4,720）		

2 事業背景・目的

令和6年度から適用される医師の働き方改革を見据え、飛騨市民病院の経営を持続可能なものとしていくためには、医師の確保が最重要課題といえます。

当院においては、これまで研修医の受け入れ拡充に尽力することで平均3名/日の医師を確保できるようになりましたが、屋根瓦式教育体制を敷く中で、今後は初期臨床研修を修了した卒後3年目以降の専攻医（専門研修）の受け入れにも積極的に取り組むことが必要と考えています。

3 事業概要

①【新規】地域総合診療専門医の研修受入の推進（400千円）

日本地域医療学会において令和5年度から養成が始まる「地域総合診療専門医」の基幹型病院に認定されたことで、最長36ヶ月間の専攻医（専門研修）の受け入れが期待されますが、現時点で認定されている全国46病院のうちから当院を研修病院として選んでもらえるよう、当院の学生から研修医、そして専攻医までの切れ目のない研修体制や地域課題を共有するネットワークを活用した研修環境などの強みを網羅したパンフレットの作成や、ホームページの整備を行います。

②【拡充】国立成育医療研究センターからの専攻医受入の期間延長（1,900千円）

令和元年の小児科医師の交換研修をきっかけに始まった国立成育医療研究センターからの専攻医研修の受入期間を1ヶ月間から3ヶ月間に延長します。これにより、専攻医には地域内の広範囲なエリアで小児医療の実態を経験してもらう機会をつくることができ、研修の充実につながることに加え、当院にとっては常勤医師の不在日にも外来が開設でき、また常勤医師の働き方改革にも寄与する取り組みとなります。

③【継続】枚方公済病院からの専攻医の受入（4,920千円）

令和4年度から受け入れを開始した枚方公済病院から、内科専攻医としてへき地医療・総合内科研修の4ヶ月間の受け入れを継続して実施し、地域総合診療に関心の高い医師の育成を進めます。

担当課：病院事務局管理課（☎0578-82-1150） 予算書：P.49（病院事業会計）

新規 飛騨市民病院における魅力的な労働環境の整備

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
7,300	ふるさと基金	7,300
		研修医室整備 1,700
		医局整備 1,200
(前年度予算 0)		病院車両更新 4,400

2 事業背景・目的

全国の皆さまから「地域医療を支える人づくり」に対して寄せられたふるさと納税を活用し、飛騨市民病院の医療職や研修医、研修学生の労働・居住・研修環境を整備し、富山大学の地域医療実習事業「神通川プロジェクト」や急性期・慢性期・在宅支援に至るまで質の高いサービスを提供できる当院独自の「里山ナース」育成プログラムにつながる学ぶ環境の充実を図ります。

3 事業概要

① 研修医室の環境整備 (1,700千円)

多数の研修医・学生が重複滞在することで手狭となる期間が年々増えている研修室の机などを入れ替えることで、個人の空間を確保しつつ多人数をより快適で効率的に受け入れられる環境を整えます。

② 医局の環境整備 (1,200千円)

初期臨床研修を終えた医師免許取得後3年目からの専攻医の受け入れが常態化しつつある中で、老朽化した医局の机等の備品を更新し、プライバシーに配慮した働きやすい環境を整備します。

③ 訪問診療等の環境整備 (4,400千円)

訪問診療や訪問リハビリで常時使用する車両について、3台中2台がすでに13年経過し安全機能等も搭載されていないことから、衝突安全機能を装備した車両へ2台更新し、市民の健康を守る飛騨市民病院の車両として、市民に対する安全対策に万全を尽くすと共に、確保が困難である医療従事者をはじめとした大切な職員の交通事故リスク軽減を図ります。